

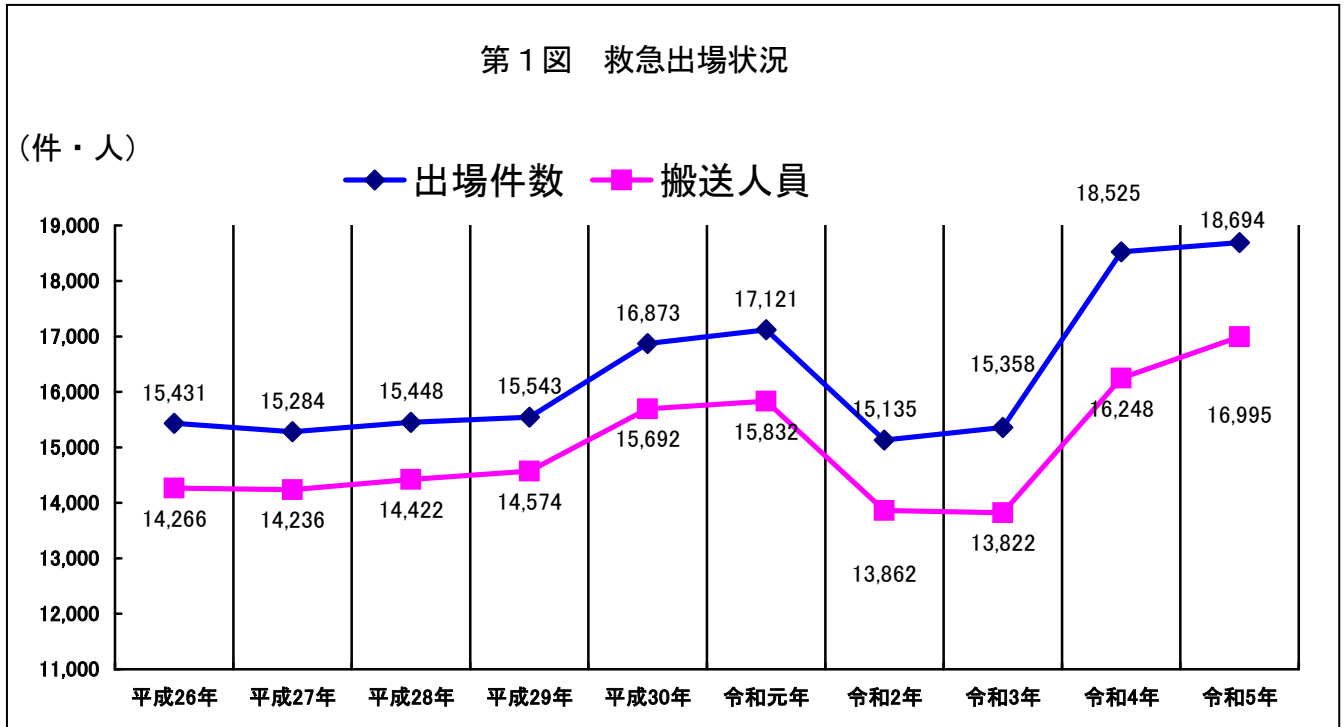
# 令和5年（1月～12月）における救急概況

※ 本統計中の全ての表・図における合計値は、端数処理の関係で100%とならない場合があります。

## 1 救急出場状況

令和5年中の救急出場件数は18,694件で、前年と比べて169件増加している。これは、1日平均51件（28分に1件）の割合で救急車が出場していることになる。

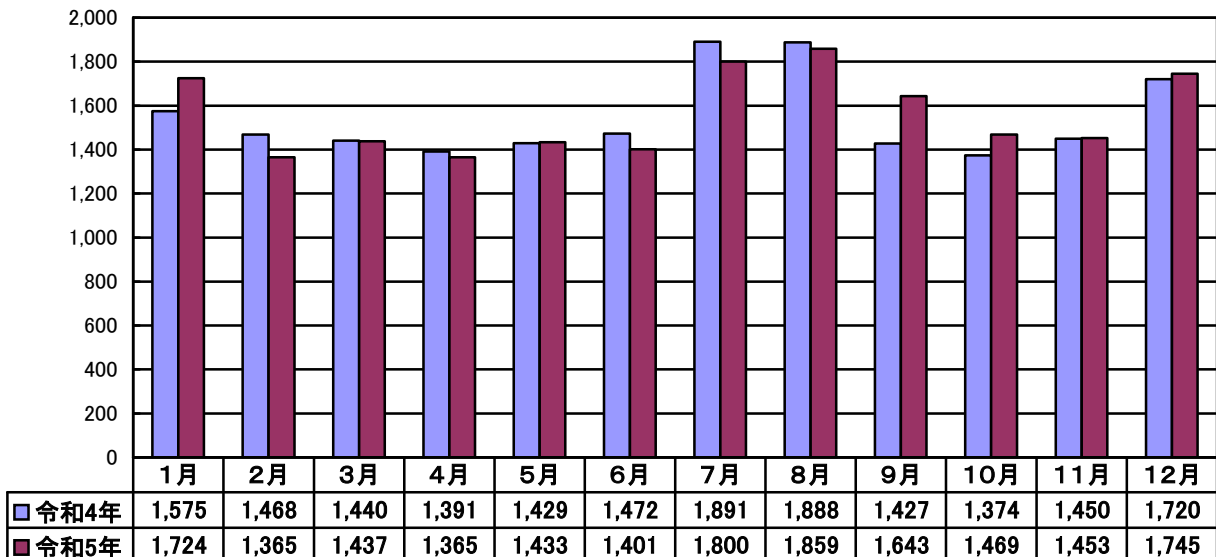
搬送人員は16,995人で、前年と比べて747人増加している。（第1図）



## 2 月別出場件数

救急出場件数を月別で見ると、8月が1,859件で最も多く、次いで7月が1,800件、12月が1,745件の順となっている。（第2図）

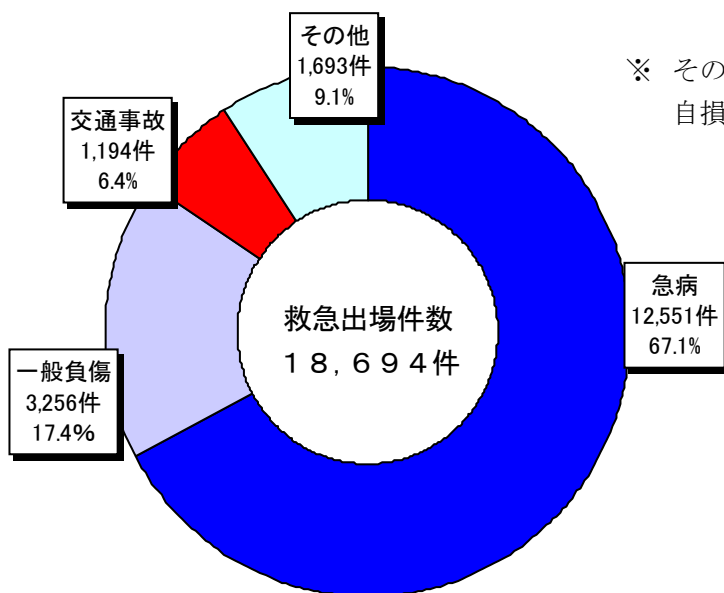
第2図 月別出場件数



### 3 事故別出場状況

救急出場件数を事故種別ごとにみると、急病が12,551件、一般負傷が3,256件、交通事故が1,194件の順となり、これら3種別で全体の91%を占めている。(第3図)

第3図 事故別出場状況

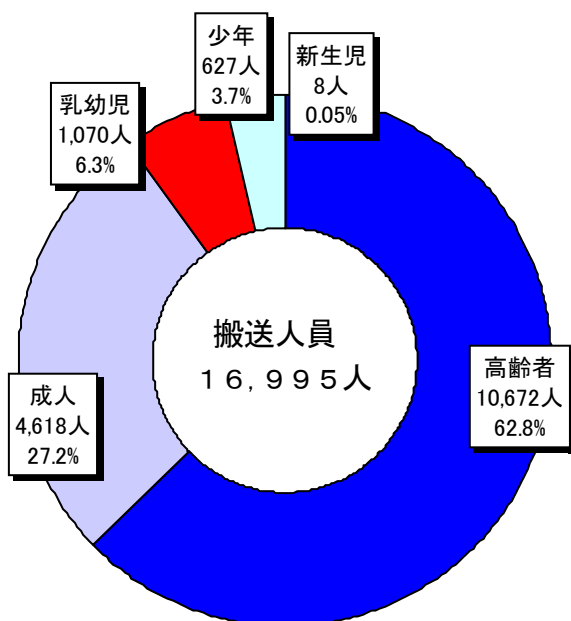


※ その他の件数は、転院搬送、労働災害、自損行為、加害等の合計である。

### 4 年齢区分別搬送状況

搬送人員を年齢区分別にみると、高齢者が10,672人で全体の63%を占めており、成人が4,618人、乳幼児が1,070人、少年が627人、新生児が8人の順となっている。(第4図) (注1)

第4図 年齢区分別搬送状況



(注1)

新生児：生後28日以下

乳幼児：生後29日以上6歳以下

少年：7歳以上17歳以下

成人：18歳以上64歳以下

高齢者：65歳以上

## 5 診療科目及び管内外別搬送状況

搬送人員を診療科目別にみると、内科が5,000人、脳神経外科が2,717人、整形外科が2,541人の順となっている。

搬送先医療機関については、全体の73%を市内へ、27%を市外へ搬送している。  
(第1表)

第1表 診療科目及び管内外別搬送人員

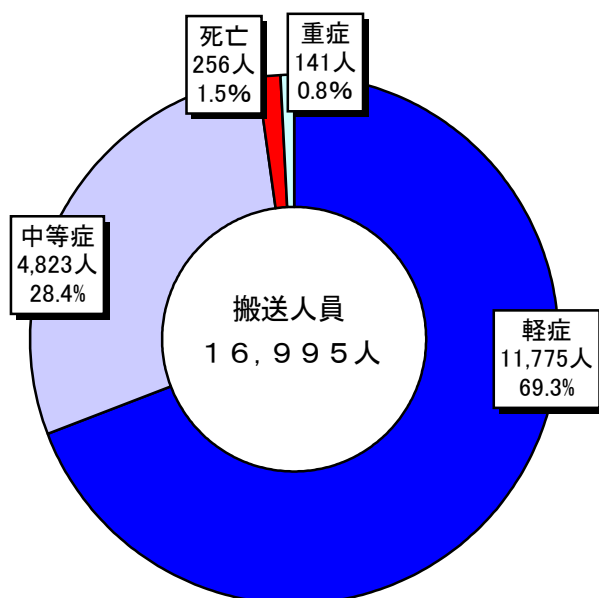
	八尾市内	八尾市外	合計(人)
内 科	3,968	1,032	5,000
循環器科	971	313	1,284
呼吸器科	1,188	475	1,663
小児科	418	654	1,072
外 科	311	217	528
整形外科	2,045	496	2,541
脳神経外科	1,913	804	2,717
産婦人科	36	105	141
泌尿器科	205	92	297
神経内科	1,134	278	1,412
その他	180	160	340
合 計	12,369	4,626	16,995

※ 上記表中の「その他」とは、上記診療科目以外の全てのものをいう。

## 6 傷病程度別搬送人員状況

搬送人員の内訳を傷病程度別にみると、軽症が11,775人、中等症が4,823人、重症が141人などとなっている。(第5図) (注2)

第5図 傷病程度別搬送人員状況



(注2)

死 亡：初診時に死亡が確認されたもの  
 重 症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの  
 中 等 症：傷病の程度が重症または軽症以外のもの  
 軽 症：傷病の程度が入院加療を要しないもの

## 7 応急手当の普及啓発活動

救急車の要請から現場に到着するまでの時間は、約8.9分である。

救急車が現場に到着するまでの間、救急現場近くの住民等による応急手当が適切に実施されれば、大きな救命効果が得られる。

消防本部では心肺蘇生法の普及啓発活動を積極的に推進している。(第2表)

第2表 令和5年中普及啓発活動状況

区分 講習会名	開催回数 (回)	受講人数 (人)	講習内容
普通救命講習Ⅰ	30	555	心肺蘇生法・AED・止血法の3時間講習
普通救命講習Ⅱ	0	0	普通救命講習Ⅰの内容に実技試験及び筆記試験を加えた4時間講習
普通救命講習Ⅲ	5	104	心肺蘇生法(主に小児・乳児・新生児)・AED・止血法の3時間講習
上級救命講習	2	23	普通救命講習の内容に加え小児・乳児の心肺蘇生法、外傷の手当法の訓練を実施した後、実技試験及び筆記試験を行う8時間講習
応急手当訓練	84	2,909	3時間に満たない心肺蘇生法・AED・止血法の講習
計	121	3,591	

〈参考〉

消防本部では、ご自宅や職場でも応急手当を学んで頂けるよう、動画「WEB自主防災(心肺蘇生法とAEDの使用法)」を作成し、YouTube 八尾市公式チャンネルで公開しています。

【動画イメージ】



【動画QRコード】

